熱田小児科クリニック掲示板

７月のテーマ　『夏風邪』

(医)熱田小児科クリニック「ひまわり」スタッフ

夏の３大風邪

咽頭結膜熱（プール熱）

特徴は…プールでの感染が多く見られることから、プール熱とも言われていますが、原因であるアデノウイルス自体には季節性がなく、最近では夏季に限らず流行の見られることがあります。

治療・予防…対処療法が中心です。眼症状が強い場合、眼科的な治療が必要です。

予防の基本は、石鹸による手洗いやうがいです。

プールでは、泳ぐ前後のシャワー、洗眼を忘れずにしましょう。

タオルや洗面器は共用しないようにしましょう。

ヘルパンギーナ

特徴は…発熱とのどの水疱が特徴の小児ウイルス性咽頭炎で、夏風邪の代表的疾患です。

治療・予防…対処療法のみで、症状によっては解熱剤を使用します。

のどの痛みから食欲もなくなるので、脱水症状にならないように水分を摂らせます。

予防は、感染者に近づかないことと、手洗いやうがいが基本です。

まれに、髄膜炎や脳炎を合併することがあるので、頭痛、嘔吐、高熱が続く場合は、受診しましょう。

手足口病

特徴は…病名の通り、手、足、口に水泡ができる感染症で、大部分のみの軽い症状です。4歳くらいまでの幼児に多い感染症ですが、感染力が強く、学童でも流行することがあります。

治療・予防…特別に治療を必要としないことがほとんどですが、口の中が痛くて、食べられなくなるので、脱水症状にならないように水分を摂らせます。

予防は、感染者に近づかないことと、手洗いやうがいが基本です。

まれに、髄膜炎や脳炎を合併することがあるので、頭痛、嘔吐、高熱が続く場合は、受診しましょう。

☆注意すること☆

・ほとんどは1週間で回復しますが、まれに髄膜炎、脳症などの重い合併症を起こすことがあります。発熱が長引いたり、頭痛や嘔吐などが続く時にはすぐ受診しましょう。

・髄膜炎とは…風邪のウイルスや細菌が髄膜（脳や脊髄を被っている膜）に感染し、炎症を起こす。高熱や激しい頭痛、けいれんなどの症状が出ると言われている。